

INFECTIOUS DISEASES WEEKLY REPORT

TOKYO **iDWR**

東京都感染症情報センター

東京都感染症週報

2013年第38週
(9月16日～9月22日)

- * 2013年9月25日現在の情報により作成しています。
最新のデータは「Web版感染症発生動向」をご覧ください。
<http://survey.tokyo-eiken.go.jp/>
- * 今週は感染症豆知識「口腔性交は性感染症温床」も記載しています。

平成25(2013)年9月26日発行

編集・発行

東京都健康安全研究センター
健康危機管理情報課

電話：03-3363-3213(直通)
FAX：03-5332-7365
e-mail：idsc@tokyo-eiken.go.jp

全数把握対象疾患 報告数（一類～四類） 2013年38週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
一類	エボラ出血熱							
	クリミア・コンゴ出血熱							
	痘そう							
	南米出血熱							
	ペスト							
	マールブルグ病							
	ラッサ熱							
二類	急性灰白髄炎							1
	結核	70	74	89	78	2,902	317	19,251
	ジフテリア							
	重症急性呼吸器症候群 *1							
	鳥インフルエンザ(H5N1)							
指定	鳥インフルエンザ(H7N9) *2							
三類	コレラ							2
	細菌性赤痢	3	3		3	28	4	112
	腸管出血性大腸菌感染症	13	10	26	23	306	99	3,088
	腸チフス		1			14	2	46
	パラチフス					16		36
四類	E型肝炎	1			1	24	2	90
	ウエストナイル熱							
	A型肝炎		1			17	1	100
	エキノコックス症							12
	黄熱							
	オウム病					2		8
	オムスク出血熱							
	回帰熱							1
	キャサヌル森林病							
	Q熱					3		3
	狂犬病							
	コクシジオイデス症					3		3
	サル痘							
	重症熱性血小板減少症候群 *3							39
	腎症候性出血熱							
	西部ウマ脳炎							
	ダニ媒介脳炎							
	炭疽							
	チクングニア熱					3	1	11
	つつが虫病		1			2		143
	デング熱	3	1	3	3	47	9	172
東部ウマ脳炎								
鳥インフルエンザ(H5N1及びH7N9を除く)								
ニパウイルス感染症								
日本紅斑熱						5	98	
日本脳炎							1	

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
四 類	ハンタウイルス肺症候群							
	Bウイルス病							
	鼻疽							
	ブルセラ症							2
	ベネズエラウマ脳炎							
	ヘンドラウイルス感染症							
	発しんチフス							
	ボツリヌス症							
	マラリア		1			7	2	37
	野兎病							
	ライム病	4		1		7		16
	リッサウイルス感染症							
	リフトバレー熱							
	類鼻疽					1		2
	レジオネラ症	2	2	1	2	54	30	779
	レプトスピラ症			1		3	3	17
ロッキー山紅斑熱								
2013/9/25集計								

*1 病原体がコロナウイルス属SARSコロナウイルスであるものに限る。

*2 2013年5月6日より新たに追加指定された。

*3 病原体がフレボウイルス属SFTSウイルスであるものに限る。2013年3月4日より新たに追加指定された。

(全数把握対象疾患のコメント・一類～四類)

〈二類感染症〉

結核 78件 肺結核 42件、その他の結核 8件、肺結核及びその他の結核 1件、無症状病原体保有者 24件、疑似症 3件、年齢は10歳未満 4件(うち5歳未満 3件)、10代 3件、20代 11件、30代 5件、40代 10件、50代 5件、60代 10件、70代 12件、80代 14件、90歳以上 4件、推定感染地は国内 75件、中国 1件、中国又は韓国 1件、国内又は国外(渡航先不明)1件であった。

〈三類感染症〉

細菌性赤痢 3件 患者 3件、年齢は20代 1件、30代 2件、菌種はソンネ 3件、推定感染地は国内 1件、インド 1件、中国 1件、推定感染経路は性的接触(同性間) 1件、その他(河川) 1件、その他(不明) 1件であった。
腸管出血性大腸菌感染症 23件 患者 9件、無症状病原体保有者 14件、血清型・毒素型はO26 VT2 10件、O157 VT2 6件、O157 VT1・VT2 4件、O103 VT1 1件、O121 VT2 1件、O157 VT(型不明) 1件、年齢は10歳未満 9件(うち5歳未満 6件)、10代 2件、20代 3件、30代 5件、40代 2件、50代 1件、80代 1件、推定感染地は国内 23件、推定感染経路は経口感染 5件、接触感染 1件、経口感染又はその他 7件、経口感染又は接触感染 1件、その他(不明) 8件、その他 1件であった。O26 VT2の10事例は、第36週、第37週で報告のあった保育園での集団発生関連の事例であった。O157 VT2の2事例も別の保育園での集団発生関連の事例であった。

〈四類感染症〉

E型肝炎 1件 患者、年齢は60代、推定感染地は国内、推定感染経路は経口感染であった。
デング熱 3件 患者 3件、年齢は20代 2件、30代 1件、推定感染地はフィリピン 2件、タイ 1件であった。
レジオネラ症 2件 肺炎型 2件、年齢は50代 1件、60代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路はその他(不明) 2件であった。

※ 第37週該当分として〔四類〕デング熱 2件の追加報告があった。

全数把握対象疾患 報告数（五類） 2013年38週

分類	対象疾患	東京都(保健所受理週)					全国(診断週)	
		35週	36週	37週	38週	年累計	38週	年累計
五 類 (全 数 届 出)	アメーバ赤痢	2	3	2	2	139	12	765
	ウイルス性肝炎 (A型・E型を除く)	1	2	3	1	59	2	207
	急性脳炎 *1		1	1		34		275
	クリプトスポリジウム症					2		11
	クロイツフェルト・ヤコブ病			1		12	2	151
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	1	2			27	3	155
	後天性免疫不全症候群	8	14	15	7	346	17	1,104
	ジアルジア症	2			2	17	2	61
	侵襲性インフルエンザ菌感染症 *2	1				7	2	72
	侵襲性髄膜炎菌感染症 *2		1	1		9		18
	侵襲性肺炎球菌感染症 *2			1	2	64	4	573
	髄膜炎菌性髄膜炎 *3	/	/	/	/			2
	先天性風しん症候群	1				8		14
	梅毒	12	9	13	4	311	15	877
	破傷風			1		4		101
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症							
	バンコマイシン耐性腸球菌感染症					7		43
	風しん	18	10	11	12	3,374	28	14,077
麻しん			1		59	1	206	
2013/9/25集計								

*1 ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ベネズエラウマ脳炎及びリフトバレー熱を除く。

*2 2013年4月1日より新たに追加指定された。

*3 2013年4月1日より指定が解除された。

（全数把握対象疾患のコメント・五類）

〈五類感染症〉

アメーバ赤痢 2件 腸管 2件、年齢は30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路はその他(不明) 2件であった。

ウイルス性肝炎 1件 B型、年齢は40代、推定感染地は国内、推定感染経路はその他(2～3年前のオートメイク)であった。

後天性免疫不全症候群 7件 AIDS 1件、無症候キャリア 6件、AIDS患者の年齢は30代 1件、無症候キャリアの年齢は20代 2件、30代 3件、40代 1件、推定感染地は国内 7件、推定感染経路は性的接触 7件(同性間 6件、異性間 1件)であった。

ジアルジア症 2件 年齢は20代 1件、30代 1件、推定感染地はインド 1件、インド又はネパール 1件、推定感染経路は経口感染 2件であった。

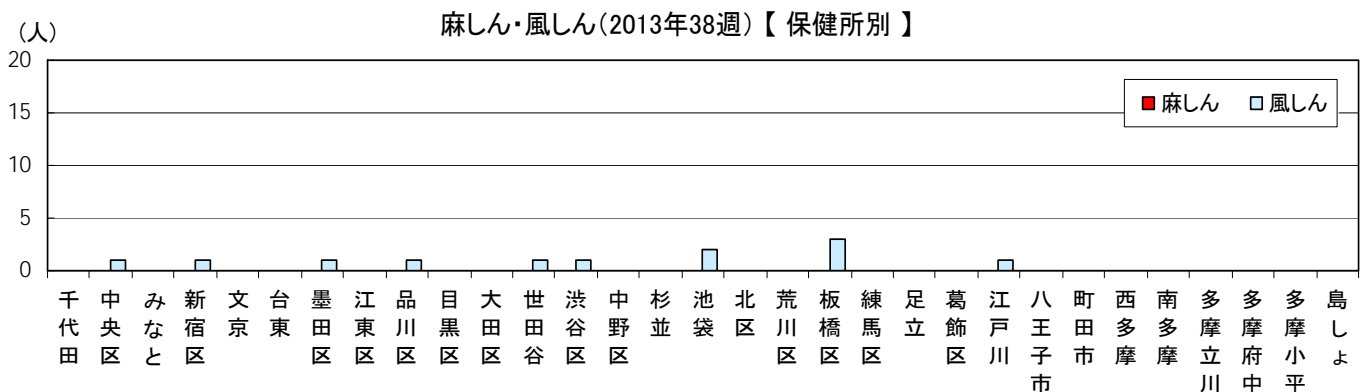
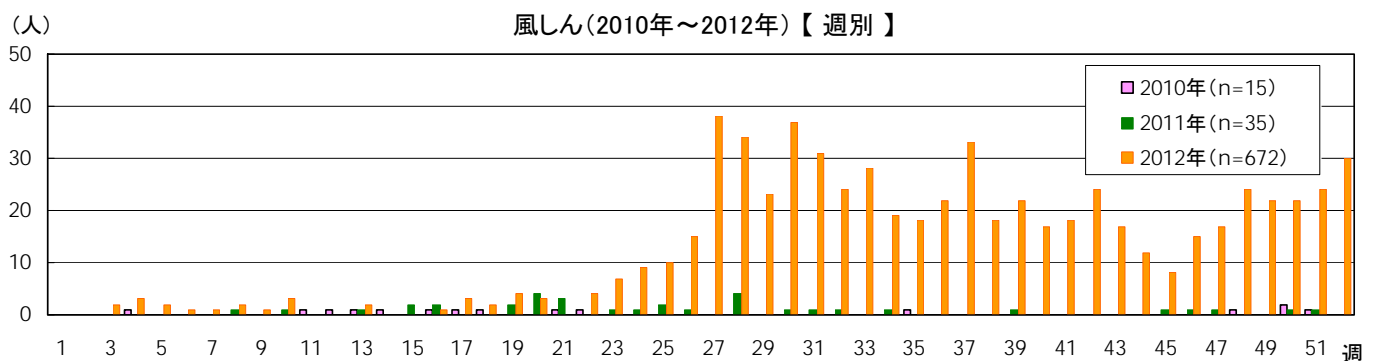
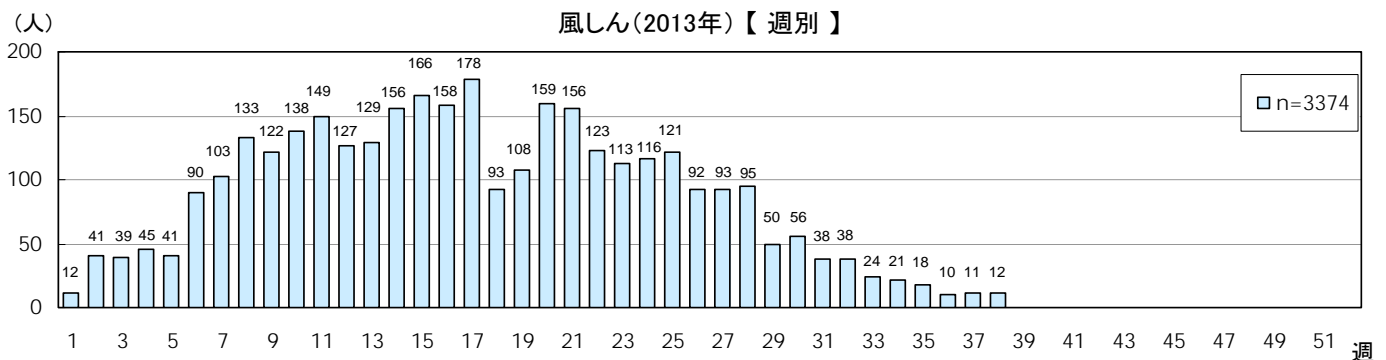
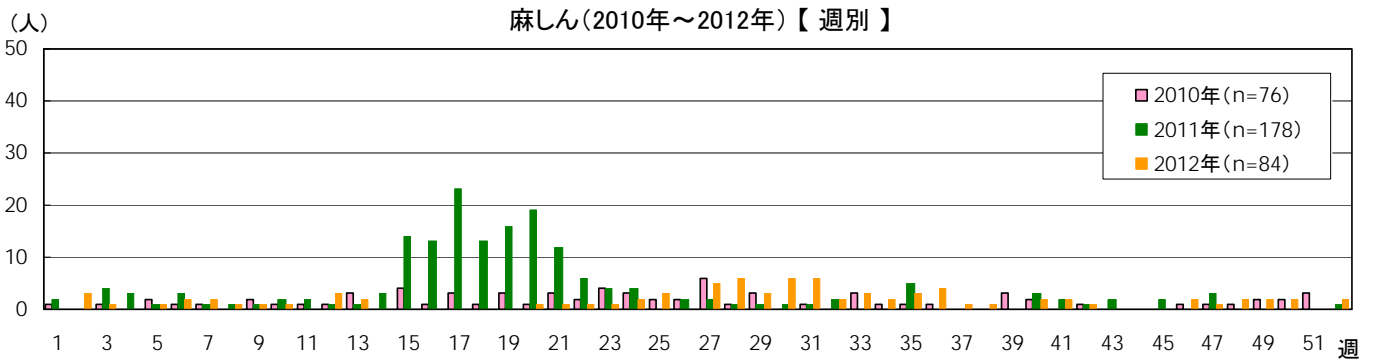
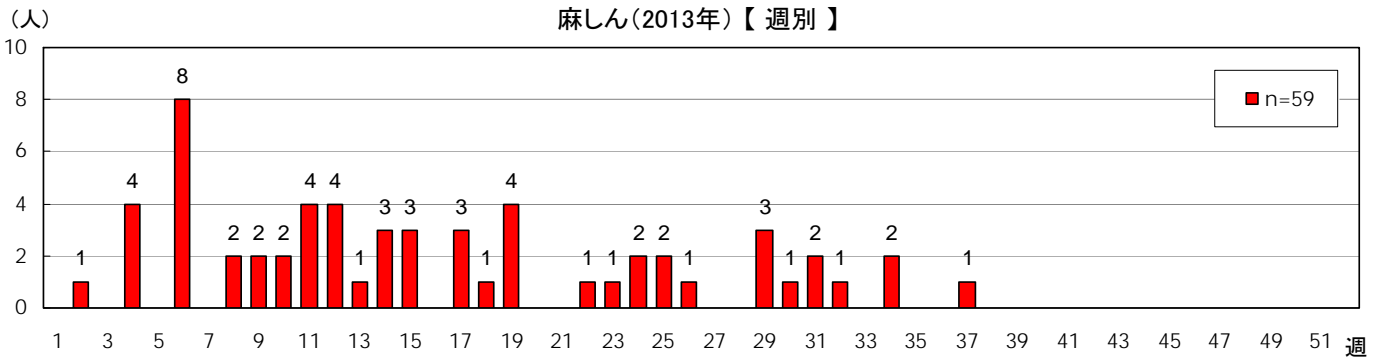
侵襲性肺炎球菌感染症 2件 血清型は記載なし 1件、未実施 1件、年齢は80代 2件、推定感染地は国内 2件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 2件、肺炎球菌ワクチン接種歴は接種なし 2件であった。

梅毒 4件 早期顕症梅毒Ⅱ期 4件、年齢は20代 2件、30代 1件、40代 1件、推定感染地は国内 4件、推定感染経路は性的接触(同性間 4件)であった。

風しん 12件 検査診断例 7件、臨床診断例 5件、年齢は10代 1件、20代 3件、30代 5件、40代 2件、60代 1件、推定感染地は国内 12件、推定感染経路は飛沫・飛沫核感染 3件、接触感染 1件、その他(不明) 8件、風しん含有ワクチン接種歴は1回接種 1件、接種なし 2件、不明 9件であった。

※ 第37週該当分として〔五類〕侵襲性髄膜炎菌感染症 1件の追加報告があった。

全数把握対象疾患(麻しん・風しん)報告数(週別・保健所別)



定点把握対象疾患 報告数 2013年38週

定点種別	対象疾患	2013年					報告 医療 機関数	定点 医療 機関数
		35週	36週	37週	38週	定点当たり		
小児科	RSウイルス感染症	146	212	308	263	1.03	255	264
	咽頭結膜熱	112	140	130	117	0.46		
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	179	202	218	200	0.78		
	感染性胃腸炎	617	773	864	753	2.95		
	水痘	78	112	130	115	0.45		
	手足口病	943	737	766	553	2.17		
	伝染性紅斑	17	8	16	12	0.05		
	突発性発しん	193	203	194	168	0.66		
	百日咳	5	1	1	2	0.01		
	ヘルパンギーナ	309	229	216	121	0.47		
	流行性耳下腺炎	48	58	45	37	0.15		
	川崎病(注1)	4	4	4	2	0.01		
	不明発しん症(注1)	21	34	32	29	0.11		
インフルエンザ	インフルエンザ(注2)	1	2	4	1	0.00	405	419
眼科	急性出血性結膜炎		1				38	39
	流行性角結膜炎	22	20	13	13	0.34		
基幹	細菌性髄膜炎(注3)	1	2				25	25
	無菌性髄膜炎	4	4	3	1	0.04		
	マイコプラズマ肺炎	6	4	13	7	0.28		
	クラミジア肺炎(オウム病を除く)	1		1				
	インフルエンザ入院(注4)							
2013/9/25集計								

(注1) 不明発しん症、川崎病 は東京都が独自に指定する疾患である。

(注2) 鳥インフルエンザを除く。

(注3) インフルエンザ菌、髄膜炎菌、肺炎球菌を原因として同定された場合を除く。

(注4) 2011年36週より開始

(今週の注目される定点把握対象疾患)

- ・RSウイルス感染症の定点当たり報告数は減少したが、過去5年平均と比較して高い値で推移している。
- ・咽頭結膜熱の定点当たり報告数は減少したが、過去5年平均と比較して高い値で推移している。

(小児科・内科定点医療機関からのコメント)

墨田区

- ・ヒトメタニューモウイルス感染症 1名(1歳児)。

世田谷区

- ・成人の手足口病が、2件みられました。

荒川区

- ・「手足口病」の流行は、おさまったようです。
- ・RSウイルス感染症が、保育園児を中心に多いです。マイコプラズマ肺炎 1名。
- ・病原性大腸菌O15 1名。

板橋区

- ・病原性大腸菌O6、O8、O145 各1名。

葛飾区

- ・咳をしている者が、急増している。
- ・不明発しん症は、エコーウイルス疑いです。

八王子市

- ・アデノウイルス胃腸炎(5か月児、1歳児)、アデノウイルス咽頭炎(4か月児)。
- ・アデノウイルスによる咽頭結膜熱(2歳児)。

多摩小平

- ・病原性大腸菌 6名。

定点把握対象疾患 報告数【年齢階級別】 2013年38週

定点種別	小児科										
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ	流行性耳下腺炎
～5か月	25	1		16	1	6		4			
～1歳	61	3		65	6	46	1	59		18	
1歳	113	12	8	105	10	153	1	86	1	32	2
2歳	40	26	8	77	14	80		12		21	3
3歳	12	18	13	77	24	74	1	5		14	5
4歳	6	19	26	55	28	69	5			13	11
5歳	5	8	25	36	12	31	2	1		7	3
6歳	1	7	24	35	12	18	1			5	5
7歳		4	26	46	3	17	1	1		2	1
8歳		2	15	30	3	18			1	4	3
9歳		3	17	26		10					
10～14歳		5	25	68	2	14				2	3
15～19歳			3	18		1					
20～29歳		9	10	99		16				3	1
30～39歳											
40～49歳											
50～59歳											
60～69歳											
70～79歳											
80歳以上											
合計	263	117	200	753	115	553	12	168	2	121	37
先週比	-45	-13	-18	-111	-15	-213	-4	-26	1	-95	-8

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点種別	小児科		インフルエンザ	眼科		基幹				
	川崎病	不明発しん症	インフルエンザ	急性出血性結膜炎	流行性角結膜炎	細菌性髄膜炎	無菌性髄膜炎	マイコプラズマ肺炎	クラミジア肺炎	インフルエンザ入院
～5か月		1								
～1歳	1	5								
1歳		16			1					
2歳		3								
3歳								1		
4歳		2						2		
5歳	1	1								
6歳										
7歳								1		
8歳										
9歳										
10～14歳								2		
15～19歳										
20～29歳		1	1		2					
30～39歳					6		1			
40～49歳					1					
50～59歳					2					
60～69歳								1		
70～79歳					1					
80歳以上										
合計	2	29	1		13		1	7		
先週比	-2	-3	-3				-2	-6	-1	

注:小児科定点把握対象疾患の「20～29歳」は「20歳以上」と読み替える。
眼科定点把握対象疾患のうち、「70～79歳」は「70歳以上」と読み替える。

定点把握対象疾患 報告数【保健所別・定点当たり】 2013年38週

定点種別	小児科									
	RSウイルス感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	感染性胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性紅斑	突発性発しん	百日咳	ヘルパンギーナ
千代田	0.33			1.33	0.33	0.33				
中央区	1.67	0.67	1.33	1.33		1.00				
みなと	4.50	1.00		2.17	2.17	4.33		0.50		1.00
新宿区	1.50	0.38	0.63	2.25		1.75		0.75	0.13	0.13
文京	0.50			1.50	1.00	1.75	0.50			0.50
台東	2.25		0.50	5.00		1.50	0.25			0.25
墨田区	0.50		0.50	2.25	1.00	1.25		0.75		
江東区	1.11	0.33	1.22	6.00	0.33	2.22		1.44		0.89
品川区	0.25	0.13	0.63	3.38	0.50	2.63	0.13	0.63		0.38
目黒区	0.25		0.50	1.50		3.25		0.50		0.25
大田区	1.54	1.15	0.46	7.08	0.15	3.15	0.15	0.54		0.31
世田谷	0.19	0.25	1.56	2.44	0.50	2.75	0.13	0.63		0.69
渋谷区			0.25	1.75		2.25		0.25		
中野区	1.71	0.43	0.29	2.00	0.14	3.14		0.29		0.29
杉並			0.22	2.33	1.00	1.56		0.67		0.22
池袋	1.60	0.40	0.60	2.20		1.20		0.40		1.00
北区	0.43		0.29	3.57	0.29	1.43		1.00		
荒川区	13.50	0.75	0.75	4.00		2.25		0.50	0.25	0.25
板橋区	0.10	0.50	0.30	1.00	0.10	1.10	0.10	0.70		0.10
練馬区	0.10	0.20	0.70	2.10	0.40	1.50		0.40		0.40
足立	0.69	0.31	1.46	4.23	0.15	2.46		0.69		0.69
葛飾区	0.25		0.38	3.75	0.25	0.63	0.13	0.13		0.13
江戸川	0.91	0.82	0.73	3.36	0.18	1.82	0.09	0.64		0.73
八王子市	2.27	1.18	1.91	4.00	1.00	2.82		0.73		1.09
町田市	0.50	0.25	1.00	5.88	0.88	1.00		0.38		0.63
西多摩			0.14	1.43	0.43	2.71		0.14		0.29
南多摩	0.56	0.56	1.22	1.33	0.67	1.11		1.11		0.44
多摩立川	0.71	0.29	1.00	1.86	0.57	2.36		0.93		0.71
多摩府中	0.40	0.55	0.85	2.00	0.70	2.15		0.85		0.45
多摩小平	1.13	1.33	0.87	2.33	0.27	3.47	0.07	1.27		0.60
島しょ						3.00				
東京都	1.03	0.46	0.78	2.95	0.45	2.17	0.05	0.66	0.01	0.47

定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田			0.33	0.25							
中央区											
みなと	0.33										
新宿区		0.13							0.50		
文京											
台東											
墨田区	0.25		0.25			1.00		1.00			
江東区	0.11		0.33								
品川区	0.38					2.00					
目黒区											
大田区		0.08				0.50					
世田谷	0.06		0.19								
渋谷区						1.00					
中野区			0.14								
杉並											
池袋			0.60								
北区	0.14										
荒川区	0.25					1.00					
板橋区	0.20		0.10								
練馬区	0.10					0.50					
足立	0.77					1.50					
葛飾区	0.25		0.13			3.00			6.00		
江戸川	0.36										
八王子市			0.27								
町田市			0.88								
西多摩	0.14										
南多摩	0.22		0.11								
多摩立川	0.07		0.14								
多摩府中	0.15		0.05								
多摩小平	0.07		0.07								
島しょ											

東京都	0.15	0.01	0.11	0.00		0.34		0.04	0.28		
-----	------	------	------	------	--	------	--	------	------	--	--

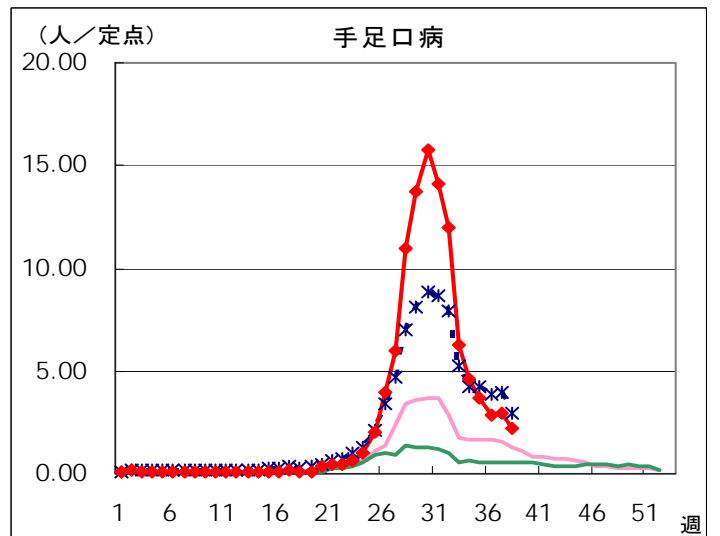
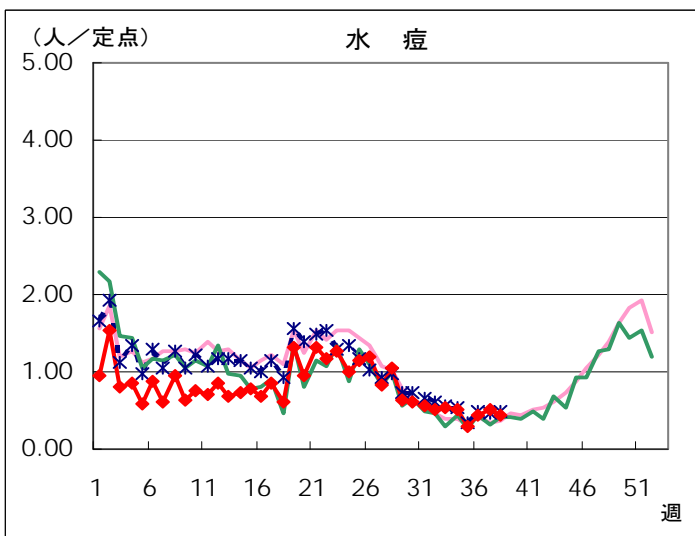
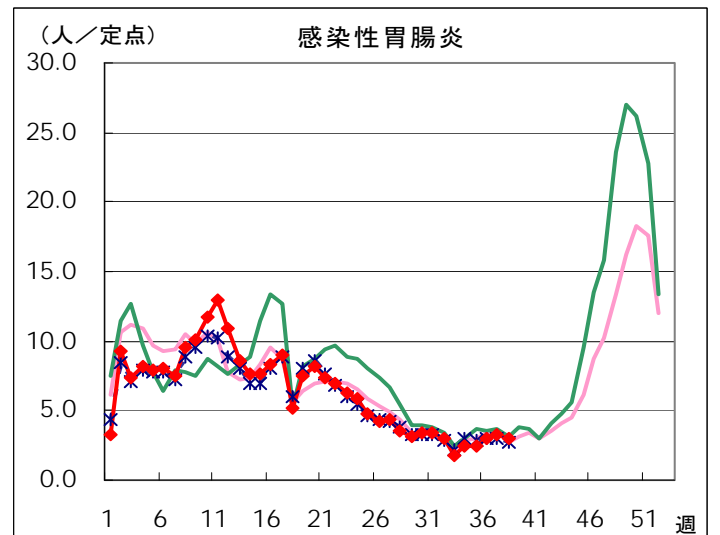
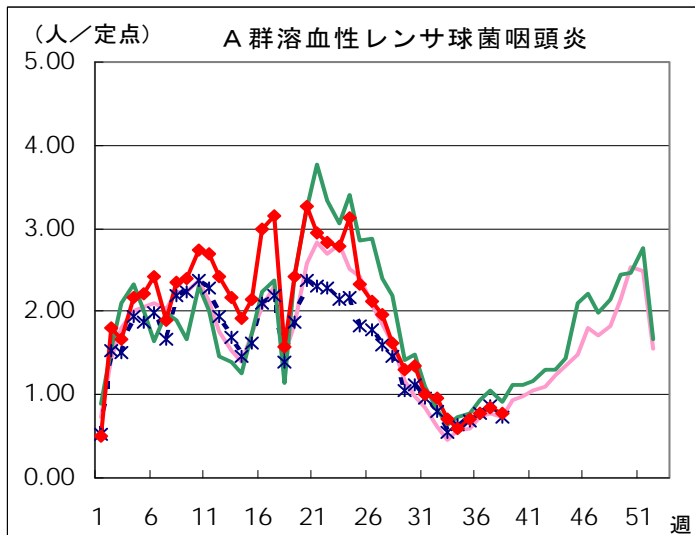
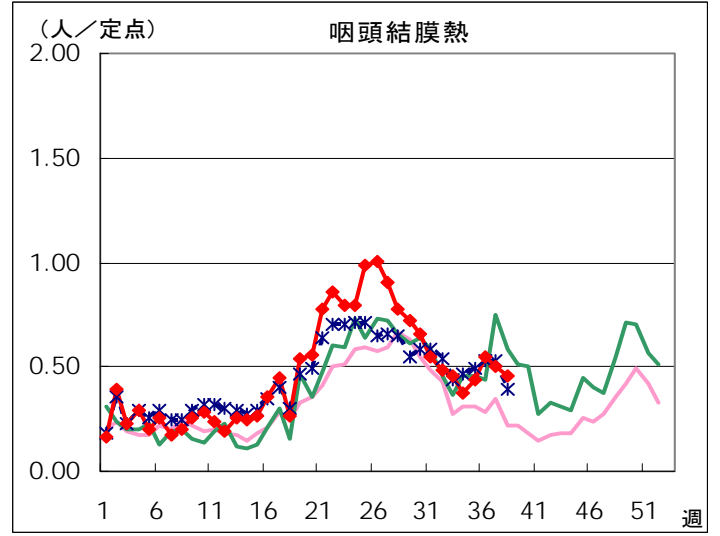
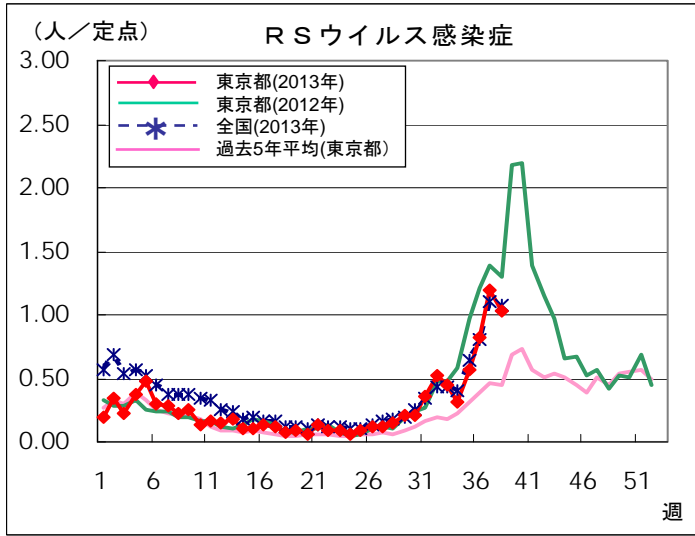
定点把握対象疾患 報告数【保健所別】 2013年38週

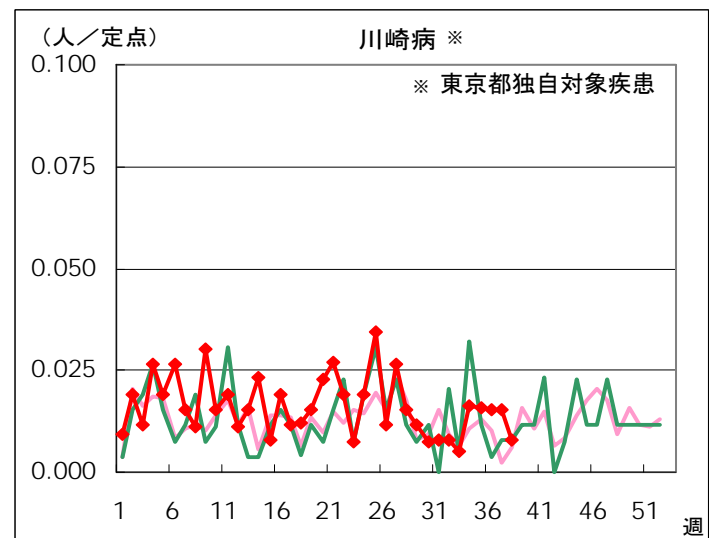
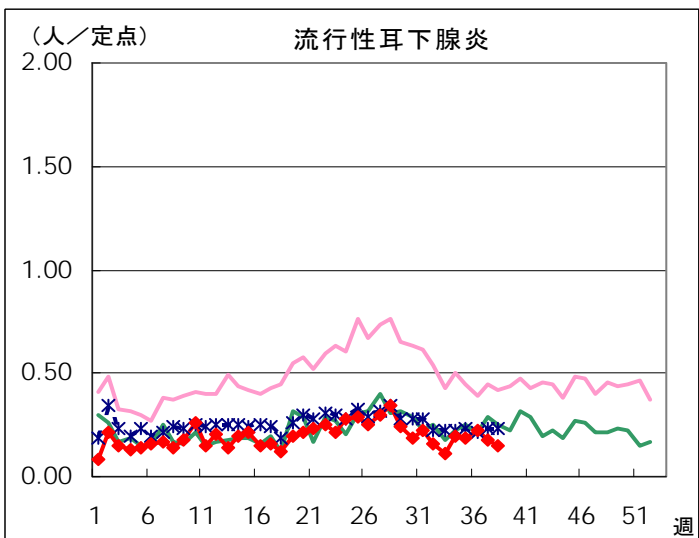
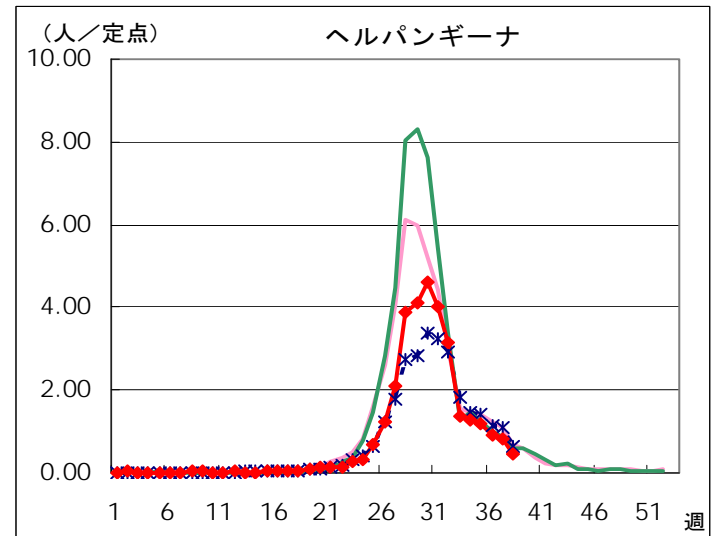
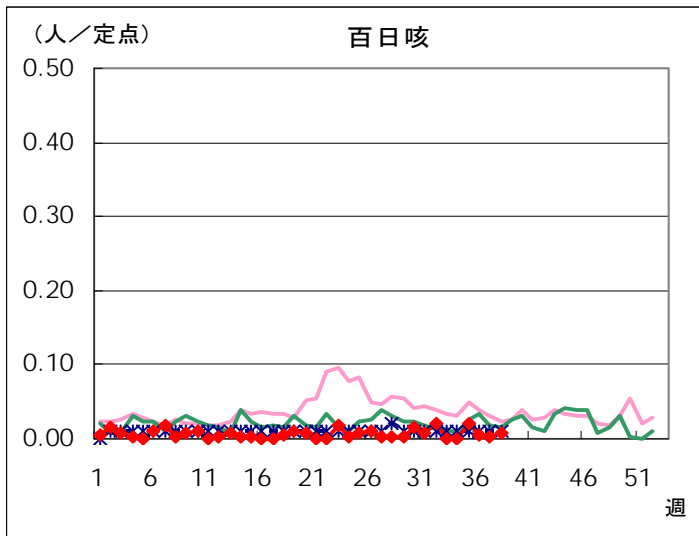
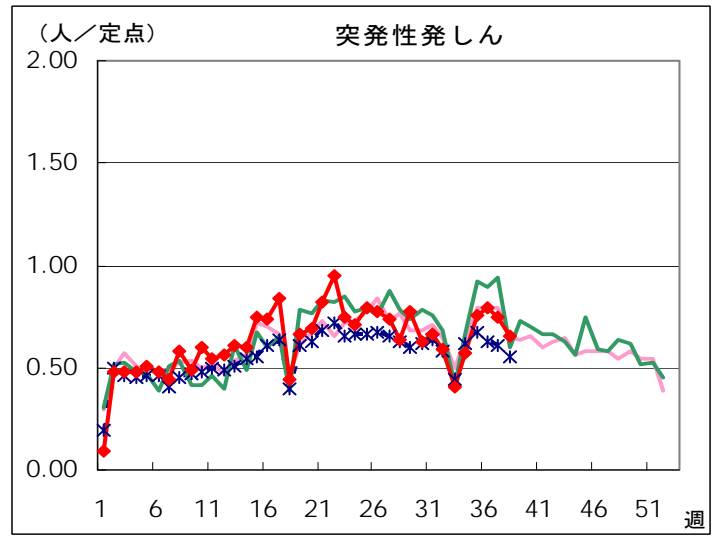
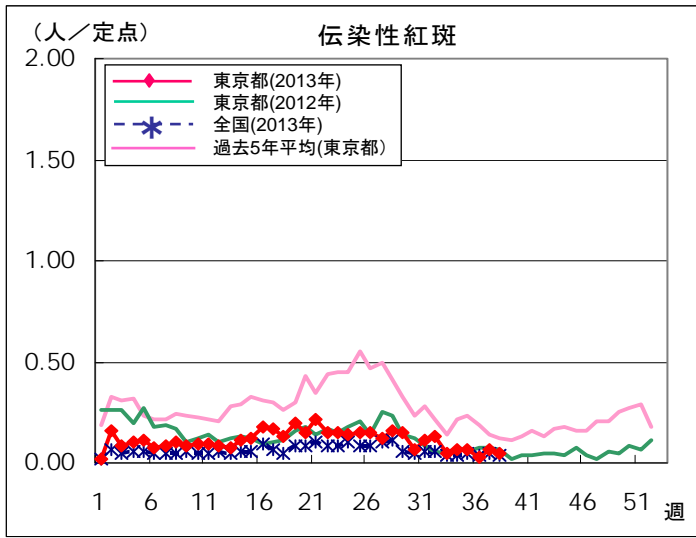
定点種別	小児科									
	RSウイルス 感染症	咽頭結膜熱	A群溶血性 レンサ球菌 咽頭炎	感染性 胃腸炎	水痘	手足口病	伝染性 紅斑	突発性 発しん	百日咳	ヘルパン ギーナ
千代田	1			4	1	1				
中央区	5	2	4	4		3				
みなと	27	6		13	13	26		3		6
新宿区	12	3	5	18		14		6	1	1
文京	2			6	4	7	2			2
台東	9		2	20		6	1			1
墨田区	2		2	9	4	5		3		
江東区	10	3	11	54	3	20		13		8
品川区	2	1	5	27	4	21	1	5		3
目黒区	1		2	6		13		2		1
大田区	20	15	6	92	2	41	2	7		4
世田谷	3	4	25	39	8	44	2	10		11
渋谷区			1	7		9		1		
中野区	12	3	2	14	1	22		2		2
杉並			2	21	9	14		6		2
池袋	8	2	3	11		6		2		5
北区	3		2	25	2	10		7		
荒川区	54	3	3	16		9		2	1	1
板橋区	1	5	3	10	1	11	1	7		1
練馬区	1	2	7	21	4	15		4		4
足立	9	4	19	55	2	32		9		9
葛飾区	2		3	30	2	5	1	1		1
江戸川	10	9	8	37	2	20	1	7		8
八王子市	25	13	21	44	11	31		8		12
町田市	4	2	8	47	7	8		3		5
西多摩			1	10	3	19		1		2
南多摩	5	5	11	12	6	10		10		4
多摩立川	10	4	14	26	8	33		13		10
多摩府中	8	11	17	40	14	43		17		9
多摩小平	17	20	13	35	4	52	1	19		9
島しょ						3				
東京都合計	263	117	200	753	115	553	12	168	2	121

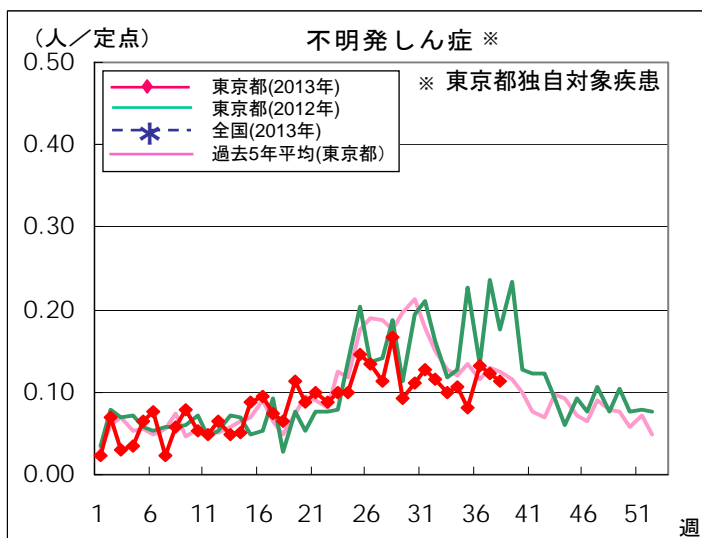
定点種別	小児科			インフルエンザ	眼科		基幹				
	流行性 耳下腺炎	川崎病	不明 発しん症	インフル エンザ	急性出血 性結膜炎	流行性 角結膜炎	細菌性 髄膜炎	無菌性 髄膜炎	マイコ プラズマ 肺炎	クラミジア 肺炎	インフル エンザ 入院
千代田			1	1							
中央区											
みなと	2										
新宿区		1							1		
文京											
台東											
墨田区	1		1			1		1			
江東区	1		3								
品川区	3					2					
目黒区											
大田区		1				1					
世田谷	1		3								
渋谷区						1					
中野区			1								
杉並											
池袋			3								
北区	1										
荒川区	1					1					
板橋区	2		1								
練馬区	1					1					
足立	10					3					
葛飾区	2		1			3			6		
江戸川	4										
八王子市			3								
町田市			7								
西多摩	1										
南多摩	2		1								
多摩立川	1		2								
多摩府中	3		1								
多摩小平	1		1								
島しょ											
東京都合計	37	2	29	1		13		1	7		

定点把握対象疾患 週別報告数(2013年38週 現在)

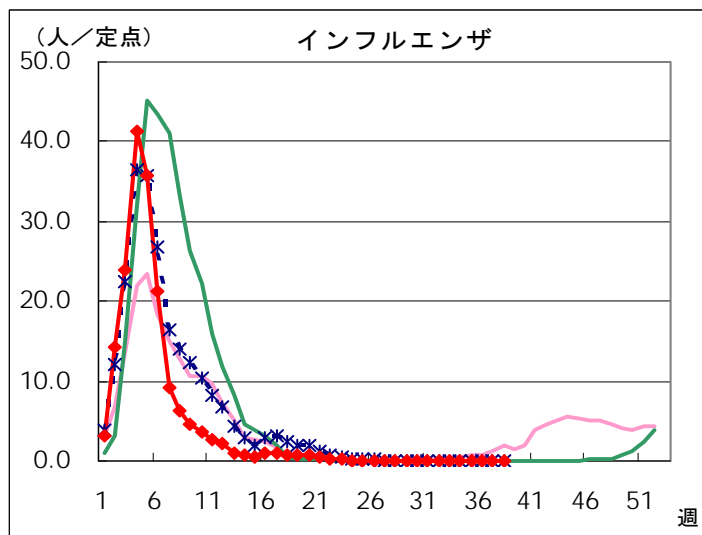
◆ 小児科定点



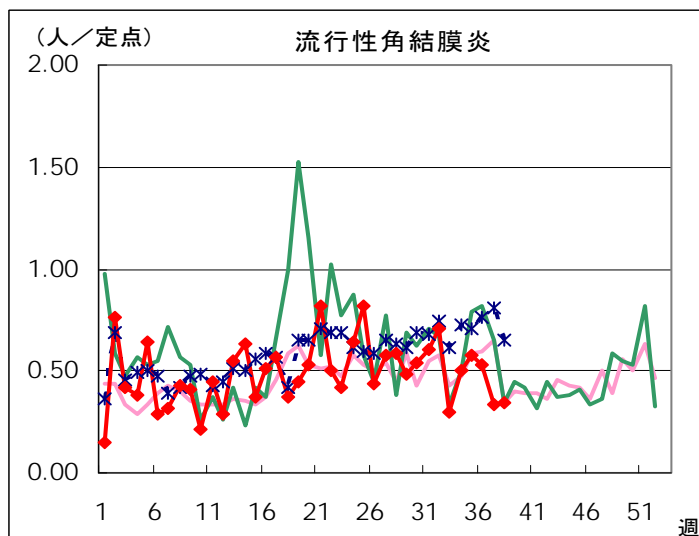
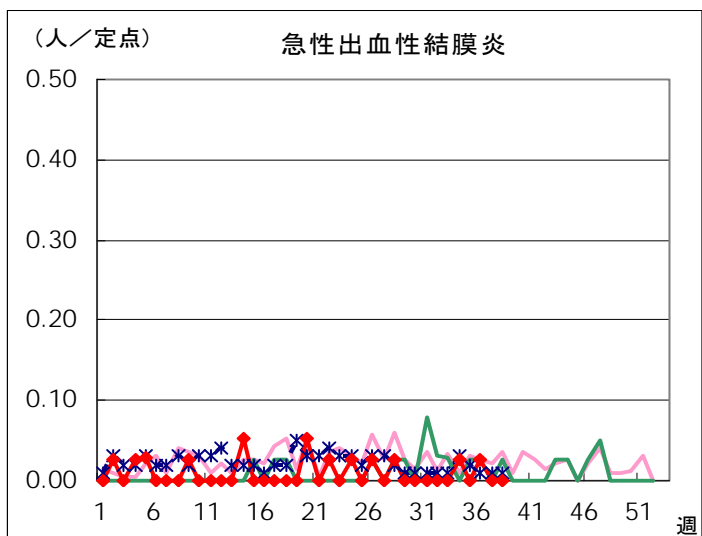




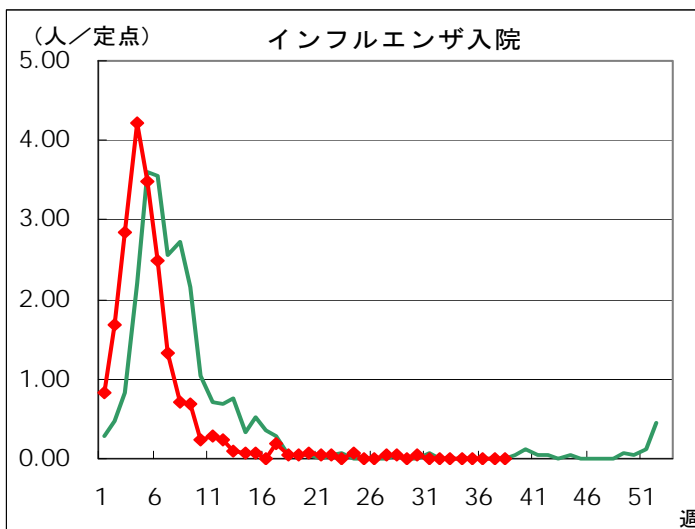
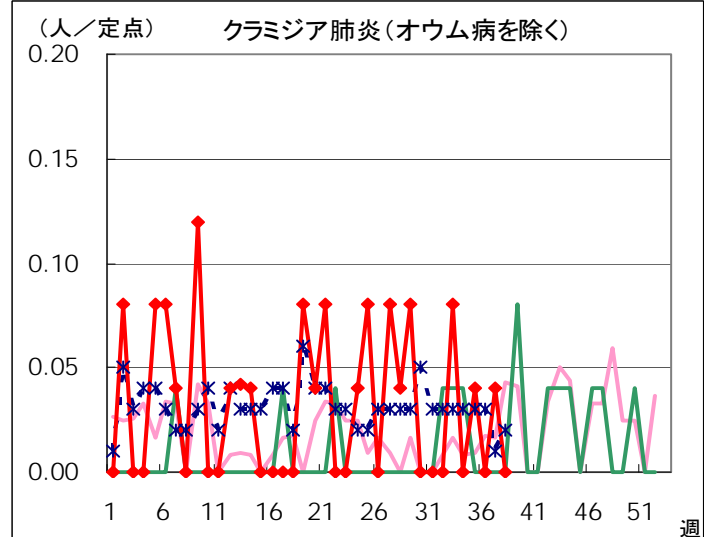
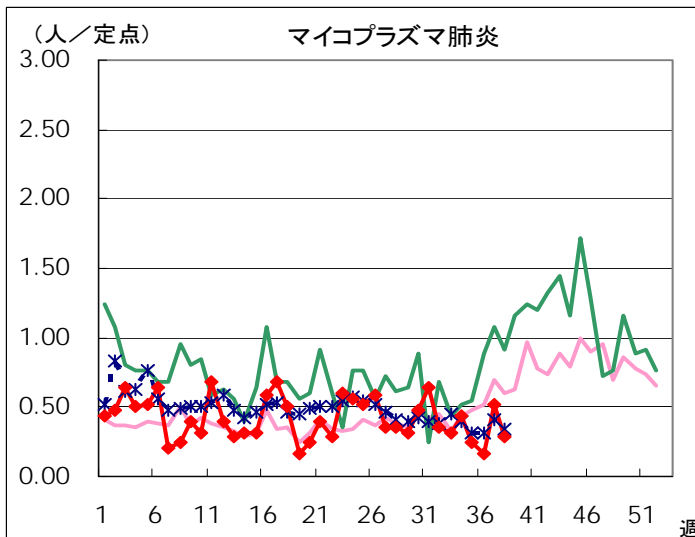
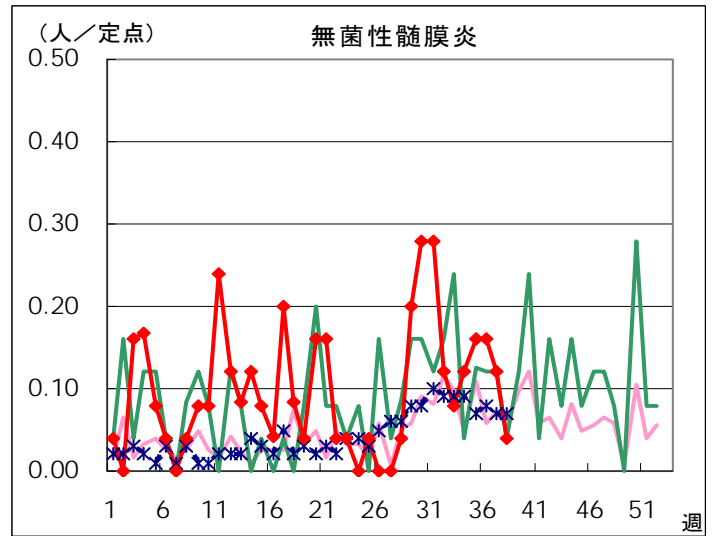
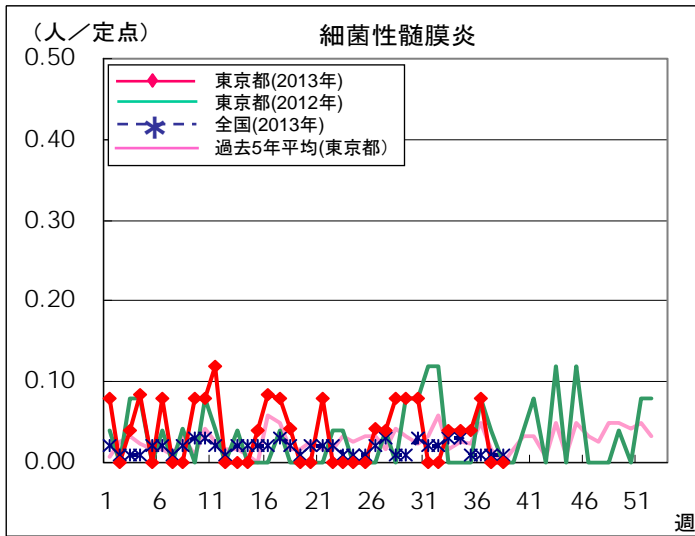
◆ インフルエンザ定点



◆ 眼科定点



◆ 基幹定点



定点(病原体)医療機関から搬入された検体の検査情報

◇病原体検出状況(インフルエンザウイルスを除く)

検体採取日	臨床診断名	患者年齢	検査試料	検出病原体	検査法
9/5	不明熱 尿路感染症	3M	咽頭拭い液	ライノウイルス	遺伝子
9/5	不明発しん症	3M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
9/9	ウイルス性発しん症 (風しん疑い)	4M	咽頭拭い液	エコーウイルス 25型	
9/11	気管支炎	4M	咽頭拭い液	RSウイルス	
9/6	突発性発しん	5M	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
9/9	手足口病	10M	咽頭拭い液	エンテロウイルス 71型 ヒトヘルペスウイルス 6型	
9/5	無菌性髄膜炎	0	糞便	エコーウイルス 9型	
9/9	RSウイルス感染症	1	鼻汁	コクサッキーウイルス B群3型	
9/9	咽頭結膜熱	1	咽頭拭い液	アデノウイルス	
9/6	手足口病	1	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型 ヒトヘルペスウイルス 7型 コクサッキーウイルス A群6型	
9/3	不明発しん症	1	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
9/12	気管支炎	2	咽頭拭い液	RSウイルス	
9/9	急性咽頭炎結膜炎	2	咽頭拭い液	エコーウイルス 18型	
9/9	急性気管支炎	2	咽頭拭い液	ライノウイルス	
9/12	不明発しん症	2	咽頭拭い液	ヒトヘルペスウイルス 6型	
9/7	咽頭結膜熱	3	咽頭拭い液	アデノウイルス	
9/5	咽頭結膜熱	4	咽頭拭い液	アデノウイルス ライノウイルス	
9/9	ヘルパンギーナ	4	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群2型	
9/9	伝染性紅斑	6	咽頭拭い液	パルボウイルスB19	
記載なし	急性咽頭炎	11	咽頭拭い液	コクサッキーウイルス A群6型	
9/9	手足口病	34	咽頭拭い液	エンテロウイルス 71型	

◇遺伝子検査法によるインフルエンザウイルスの亜型別検出件数

※「37週」は全て0件でした。

検出件数	AH1pdm09*型	AH1型	AH3型	B型
37週				
2013-2014年 シーズン累計**				

* 2011年4月1日から新型インフルエンザ(AH1N1pdm)が季節性インフルエンザに移行されたため、表記を AH1pdm09 とします。

** 2013-2014シーズンの開始は第36週(2013年9月2日～)

病原体検査情報【検出病原体別・週別】

検出病原体		2013年							
		30週	31週	32週	33週	34週	35週	36週	37週
ウイルス	アデノウイルス	3	2	5	1	4	2	3	3
	ライノウイルス	2	4			4	3	3	3
	ポリオウイルス								
	コクサッキーウイルスA群	13	18	20	3	6	6	6	4
	コクサッキーウイルスB群		1	7			1		1
	エコーウイルス	3		3	2				3
	エンテロウイルス71	2	2	2	2	3	1	5	2
	その他のエンテロウイルス	2	2	4		4	4	2	
	単純ヘルペスウイルス					1			
	水痘・帯状疱疹ウイルス	1	2				1	1	
	ヘルペスウイルス6/7	8	10	4	4	4	4	6	6
	EBウイルス	2				2		2	
	サイトメガロウイルス	1					1	3	
	ムンプスウイルス				1	1		2	
	麻疹ウイルス								
	風疹ウイルス								
	パルボウイルスB19							1	1
	RSウイルス	4		2	1			3	2
	ノロウイルス		1				1		
	ロタウイルス								
	インフルエンザウイルスAH1								
	インフルエンザウイルスAH3								
	インフルエンザウイルスB								
	インフルエンザウイルスAH1pdm09								
	デングウイルス(抗体を含む)								
	その他のウイルス	3	1	3	2	4		1	
細菌	カンピロバクター								
	サルモネラ								
	腸管出血性大腸菌								
	その他の腸管系病原菌								
	溶血性レンサ球菌								
	百日咳								
	マイコプラズマ								
	その他の細菌								
その他の病原体									

病原体検査情報【検出病原体別・臨床診断名別】

2013年30週～2013年37週

臨床診断名 検出病原体		インフル エンザ	上 気 道 炎	下 気 道 炎	感 染 性 胃 腸 炎	無 菌 性 髄 膜 炎	咽 頭 結 膜 熱	A 群 溶 連 菌 咽 頭 炎	流 行 性 角 結 膜 炎	へ ル パ ン ギ ー ナ	手 足 口 病	伝 染 性 紅 斑	不 明 発 し ん 症	流 行 性 耳 下 腺 炎	水 痘	麻 し ん	風 し ん	そ の 他
搬入検体数		6	41	44	19	64	12	1	6	14	61	2	36	8	2	1		74
ウ イ ル ス	アデノウイルス		2	2	2	1	6		3	1	3							3
	ライノウイルス		3	9	1		1				1		3					1
	ポリオウイルス																	
	コクサッキーウイルスA群	6	4	1			1			8	43		8					5
	コクサッキーウイルスB群			1		5	1							1				2
	エコーウイルス					3				1			3					4
	エンテロウイルス71		2	1		4					12							
	その他のエンテロウイルス		1	1		7	2		1	1			4	1				
	単純ヘルペスウイルス					1												
	水痘・帯状疱疹しんウイルス										2		1		2			
	ヘルペスウイルス6/7			1						1	25		9					10
	EBウイルス													2				4
	サイトメガロウイルス									2			3					
	ムンプスウイルス					1								3				
	麻疹ウイルス																	
	風しんウイルス																	
	パルボウイルスB19		1										1					
	RSウイルス		2	10														
	ノロウイルス				2													
	ロタウイルス																	
インフルエンザウイルスAH1																		
インフルエンザウイルスAH3																		
インフルエンザウイルスB																		
インフルエンザウイルスAH1pdm09																		
デングウイルス (抗体を含む)																		
その他のウイルス		4	9	1														
細 菌	カンピロバクター																	
	サルモネラ																	
	腸管出血性大腸菌																	
	その他の腸管系病原菌																	
	溶血性レンサ球菌																	
	百日咳																	
	マイコプラズマ																	
その他の細菌																		
その他の病原体																		

<感染症豆知識>

口腔性交は性感染症の温床

「オーラルでも、うつります。性感染症。」こう大書されたポスターが届いた。左肩には「厚生労働省」の文字。オーラルとは口腔性交のことである。

筆者らが平成 23 年度厚生労働科学研究の一環として実施した「性感染症罹患者の性意識ならびに性行動様式に関する研究」では、セックス経験のある方に対し、「この一年間に口腔性交の経験があるか？」を聞いた。その結果、「している(毎回している+時々している)」が全体の 49.5%(男性 54.4%、女性 42.7%)、「していない(ほとんどしていない+していない)」は 50.5%(男性 45.6%、女性 57.3%)であったが、「毎回している」割合で多いのは、男性の 30 代(32.7%)、女性の 10 代(40.0%)であった。

口腔性交を「毎回している」「時々している」「ほとんどしていない」と回答した方に、「口腔性交の際、性感染症を予防するためにコンドームを使うか」と尋ねると、「まったく使わない」が断然トップで、全体の 82.8%(男性 79.4%、女性 87.9%)、「使うときと使わないときがある」までを加えると 94.7%(男性 93.9%、女性 95.9%)であり、日本人には口腔性交にコンドームが必要であるとの認識はまったくと言っていいほどにないことが明らかとなった。

福岡県 STD 研究会による 2001 年報告では、男性尿道炎の病原体別性交形態を分析しているが、これによればオーラルだけで感染した割合は、クラミジア性尿道炎では 21.0%、淋菌性尿道炎は 43.9%。膣性交とオーラルとを加えた割合はそれぞれ 52.1%、76.2%と高率であった。今後は、「エイズ(性感染症) 予防にコンドームを」のメッセージと合わせて、「口腔性交にもコンドームを」の教育を徹底させる必要があるだろう。

(文責 一般社団法人日本家族計画協会専務理事、家族計画研究センター所長 北村邦夫)